

44. 当施設の過去5年間における悪性黒色腫の疫学的解析

皮膚科学

北村洋平, 嶋岡弥生, 小関邦彦, 林 周次郎,
濱崎洋一郎, 簗持 淳

悪性黒色腫（以下MM）は皮膚科領域で最も有名で、かつ悪性度の高い悪性腫瘍として知られている。MMは、メラノサイト（メラニン色素産生細胞）が、癌化した腫瘍であって、多くは黒褐色調病変としてみられる。転移しやすく、悪性度の高い腫瘍であるので、早期病変の段階で正確に検出、診断、適切な治療を行うことが望まれるが、進行した症例では治療に関して、いまだ有効とされる治療が確立されていないため、現在でも新薬などの開発が望まれている。また、MMはわが国において、近年、患者数が増加傾向にあるという報告がある。

今回我々は、当施設での2007-2012年度の6年間のMM患者の発生件数、性差、年齢、発症部位、ステージ分類による治療成績などを集計し、全国のデータと比較・検討及び、栃木県の地域別発症数の検討を行った。

結果、当施設では男女差は男性患者31名、女性患者31名と全く同数であった。全国の男女差は、やや女性患者が多い傾向があるが有意差はないとされている。発症年齢は、高齢者にピークがあるのは全国と同じだが50歳代にもう一つのピークがあり、全国に比べやや若い年齢層の患者が多いと考えられた。発症部位は、全国と同様に足底が最好発部位であったが、全国に多い手・手指は少なく、頭頸部・足背・足趾の発症が多く見られた。治療成績に関しては、症例数が全国と比べ少ないため比較は難しいが、おおむね全国と同様の成績と考えられた。最後に地域別発症数は、日光地区の発症が多く見られたが、南部はほぼ認められなかったことから、日光医療センターや他施設の影響が考えられた。